



長門の話題 特別編

Topics

長門市が世界から注目を集めた日

12月15日(木) 日露首脳会談 長門市開催 ～首脳会談までの市内の動きを紹介～

子どもたちもプーチン大統領を歓迎 手作りの国旗を公民館に

長門市での日露首脳会談の開催に向けて、子どもたちにロシアに親しみを持ってもらおうと12月10日(土)、長門市中央公民館で「わくわく土曜塾」ロシアってどこかな?」が開催され、市内の小学生約50人が参加しました。はじめに、わくわく土曜塾の藤田悦子塾長が、世界地図



▲自分たちで塗った国旗を高く掲げる子どもたち

を前にロシアの位置や国旗を紹介。続いて公民館職員によるロシア民話「おおきなかぶ」の読み聞かせが行われました。その後、参加者は8班に分かれ、紙で作られたロシアと日本の国旗、長門市の市旗に絵の具で色を塗り、ひもでつないで公民館1階ロビーに飾りつけました。

外務省プレスツアーに10カ国の記者が参加 長門市の魅力の世界に発信

12月6日(火)から8日(木)まで海外メディアを対象に外務省主催で開催された「山口県プレスツアー」の一行が、12月7日(水)、油谷地区の元乃隅稲成神社を訪れました。ロシアをはじめイタリヤや中国など10の国や地域から参加した15人の記者に説明を行ったのは、山口県から「日露親善やまぐちPR大使」を委嘱されている、アイドルグループ「HKT48」の村重杏奈さん。ロシア語であいさつを行った後、123基の鳥居が連



▲海外の記者に説明をする村重杏奈さん

なる景色や海水が岸壁から吹き上がる「龍宮の潮吹」を紹介し、「この神秘的な元乃隅稲成神社をはじめ、山口県の魅力を感じてくださる」と呼びかけました。参加したロシア国営テレビ東京支局長のミンガジエフ・セルゲイさんは「山口県は見どころが多く、おもてなしの心にあふれた場所。特に鳥居が連なる景色は印象的で、日露首脳会談の開催を機にロシアの皆さんにもぜひ知ってもらいたい」と話しました



▲国内の報道陣に長門市の魅力語る海外記者

ロシアで親しまれているパンをモチーフに

生徒がロシアパンを販売

12月14日(水)、大津緑洋高校日置校舎の生徒が運営する農産物直売所「農高夢市場」で、菓子パンの一種である「ロシアパン」が販売されました。同校生物生産科3年の生徒3人が考案したこのパンは、ロシアで食べられているライ麦などを使用した堅い丸形の

パンに、日本風のアレンジを加えたものです。小麦を使用した生地に砂糖水を塗り、ふんわりとした食感に仕上がるよう焼き上げました。販売は11月30日、12月7日に続いて3回目。利用者の注目を集め、この日も多くの人



▲生物生産科の生徒3人が「ロシアパン」を考案

旅館関係者や市民ら約80人が参加

ロシア語を学んでおもてなし

12月10日(土)、モスクワ音楽院に在籍経験のあるピアニストの長岡あゆみさん(萩市在住)を講師に迎え、「ロシア語とロシアを学ぶ会」が市内2カ所で開かれ、参加者は簡単なあいさつをロシア語で学んだほか、ロシアの気候や生活、文化などを学びました。



▲「こんにちは」などのあいさつを学ぶ

新しいスタート、ここ長門から

仙崎駅で歓迎の旗をお披露目

日露首脳会談を歓迎する旗と、仙崎を象徴する大漁旗のお披露目式が12月10日(土)、仙崎駅前で行われ、市民ら約50人が参加しました。旗はともに、縦2メートル、横3メートルの大きさ。歓迎の旗は「新しいスタート、ここ長門から」のメッセージと

ともに、安倍首相とプーチン大統領のイラストが描かれています。大漁旗は、青海島の高山と青海大橋、花火大会の絵が彩るカラフルな仕上がりになりました。斎木病院の斎木泰彦院長が企画し、イラストは日置出身の漫画家、岡藤功展さんが担当しました。



▲歓迎の旗は12月17日までJR仙崎駅に掲げられた

ピロシキにボルシチ風スープ

学校給食にロシア料理が登場

12月15日(木)、日露首脳会談にあわせて、市内すべての小中学校の給食に、ピロシキやボルシチ風スープなどのロシア料理が登場しました。児童らは「ピロシキはカレーみたいでご飯と合う」「ボルシチは飲んだらとても温まった」と感想を話しました。

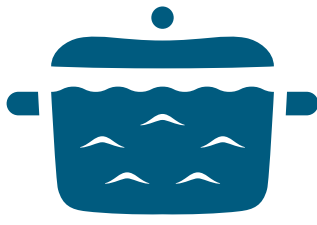


▲ピロシキを味わう児童ら

名称は「センザキッチン」に

仙崎地区交流拠点施設のオープン1年前イベントとして「めざせ！道の駅！フェス！」が11月27日(日)、青海島シーサイドスクエアで開催され、仙崎地区交流拠点施設の名称とロゴマークが発表されました。

会場に設置されたステージに登壇した大西市長とデザインの新村則人さん、ながと物産合同会社執行責任者の山本桂司さんにより、名称とロゴマークの描かれたパネルの除幕が行われ、名称の「センザキッチン」とロゴマークが発表されました。



センザキッチン

Senzakitchen

▲発表された名称とロゴマーク

大西市長は「言いやすい名前。地元の人に愛され、市外から来た人に満足感を与えられる施設になってほしい」と述べました。

デザインを担当した新村さんは「食べる、遊ぶ、つながるというキーワードをもとに、食べる要素と仙崎との2つの言葉を組み合わせました。ロゴマークは食べ物を示す鍋と海のそばをイメージさせる波を入れ、長門の食材と組み合わせたい」とデザインの意味を説明しました。会場ではしし鍋の無料配布や長州黒かしわを使ったやき



▲新村さんがデザインの意図を説明

とりドッグ、長門の食材を自由に焼けるバーベキューコーナーも設置され、来場者は長門の食を満喫していました。「センザキッチン」は平成29年10月に第1期工事として農林水産物等直売所・レストラン棟が完成し、その後、平成30年4月をめどに休憩所・情報発信施設棟が完成して、道の駅登録を目指します。



▲除幕と同時に風船も上がり、名称の発表を祝った

子育てに「木育」を生かす

11月22日(火)・23日(水)とルネッサながとで「木育キャラバンながと」が行われ、多くの家族連れが参加し、木のおもちゃなどを通して木の温もりが伝わりました。

22日には、暮らしの中に長門市産の木材を取り入れ子育てに生かす「木育」の取組を進めるため、市とNPO法人「人と木」、東京おもちゃ美術館の3者による調印式が行われ、県内初の「ウッドスタート宣言」が行われました。



▲左から多田館長、大西市長、岩本理事長

市では取組の一つとして、市内で生まれた新生児の最初のおもちゃとして、シイの木のおもちゃを贈呈する予定で、この日行われた誕生祝品贈呈式では、5家族に長門市産のシイの木を使った「くじらの親子」のおもちゃが手渡されました。



▲木のおもちゃに囲まれて遊ぶ子どもたち

長門のPeople

人生を変えた、424日の「旅ラン」。

いちのえ りょうすけ
一ノ枝 亮輔 さん

(旅ランナー) / 東深川湊3区



一度きりの人生、悔いのない生き方がしたい。平成27年9月5日、当時の勤務先だった東京都内から、一ノ枝さんは15kgのリュックサックを背負い、自身の足でスタートを切りました。ずっと叶えなかった夢は、観光地を巡ったり、郷土料理を味わったりと、旅を楽しみながら走る「旅ラン」での日本一周。東京から南下し、冬に九州・沖縄を周り、日本海側を通って春に北海道へ。そして翌年11月1日、約12,000kmを走破し、

見事にゴールを果たしました。1日に40〜50kmを走り、靴は10足も履き潰したといいますが、夜は野宿と宿を併用し、北海道で体調を崩したときは民家で看病してもらったこともありました。日本一周をともにした旗には、旅先で出会った100人以上の寄せ書きが刻まれていました。多くの出会いと経験をかみしめながら、一ノ枝さんは「一歩一歩積み重ねることの大切さを実感した。本当にやってよかった」と424日間を振り返りました。



▲日本一周をともにした地図と旗、リュックサックを紹介

旬な人

美しい自然を自転車で楽しむ

ながとブルーオーシャンライドwithのしま

11月27日(日)、青海島シーサイドスクエアをスタート。ゴールとして、最長で下関市角島まで自転車で行く「ながとブルーオーシャンライドwithのしま」が初めて開催されました。約200人が出走し、自然と風景、食にふれながらコースを走りました。



▲エイドポイントでは市民がおもてなし

協力し大会の成功を誓う

平成29年6月11日(日)に開催が予定されている「向津具ダブルマラソン」の冠スポンサーに日本航空株式会社(JAL)が決定し、11月29日(火)、長門市役所で関係者による記者会見が行われました。12月16日(金)からは、3種目合計900人の参加者募集が始まりました。



▲大西市長にモデルプレーンを贈呈